

オーレスン地域の 移動体通信産業について (デンマーク・スウェーデン)

コペンハーゲン事務所

デンマークのコペンハーゲン地域と、スウェーデン南端部のスコーネ地域とを合わせたオーレスン地域は、IT、バイオ、食品、物流関連の産業・研究開発施設が集積しており、2000年7月のオーレスン橋開通により両国が地続きとなって以降は、北欧第一の発展地域として注目されている。本稿では、このうち、主にスコーネ地域のリサーチパークおよび移動体通信関連の産業・研究開発施設に、焦点をあてて概説する。

1. 移動体通信産業をとりまく環境

スカンジナビア半島の南端に位置するスコーネ地域は、面積1万908km²、人口112万9,424人(2000年)で、スウェーデンでは最も人口密度が高い地域である。スウェーデンの国土のほとんどは花崗岩の地表上に森林が広がっているため、土壌の豊かなスコーネ地域はスウェーデンの穀倉地帯となっている。

スコーネ地域は、もともとは造船等の重工業を主産業とする地域であったが、現在はこれら産業は労働力の安価な国へ移転し、IT、バイオなどの知識集約型産業を中心とする地域となっている。

スコーネ地域の就労人口は46万9,626人で、その内訳を見ると鉱工業の就労人口9万52人(19%)を抜いて、9万3,370人(20%)の商業および運輸・通信事業の就労人口が最も多

くなっている。農林水産業の従事者は1万1,979人で、全就労人口の約3%に過ぎない。

スコーネ地域には34のコムーネ(日本の市に相当する自治体)がある。最大都市のマルメはスウェーデンの第3の都市で、人口は約24万人である。他の主要都市はヘルシンボリ(人口約10万1,000人)、ルンド(同約7万7,000人)、クリスチャンスタッド(同約6万8,000人)がある。マルメとヘルシンボリ、クリスチャンスタッドには空港があり、国内線がスウェーデンの首都ストックホルムと結んでいるほか、デンマークのコペンハーゲンとの間にも空路が開けている。また、航路ではマルメとヘルシンボリ、クリスチャンスタッドのほかに、ランズクローナ、ユスタッドなど8港に、デンマークやノルウェーおよびバルト諸国などとの間を結ぶフェリーがある。

2000年7月にはマルメとオーレスン海峡を

.....

越えてコペンハーゲンまで、橋（8 km）とトンネルで全16kmのオーレスン橋が開通した。これによって南スウェーデンとデンマークは自動車や鉄道によって結ばれ、1658年まではデンマーク領であったスコーネ地域とコペンハーゲンとの海峡を挟んだ両岸の友好がますます深くなっている。

そしてオーレスン橋開通を機に、オーレスン海峡兩岸のスコーネ地域とコペンハーゲンおよびその近郊を「オーレスン地域」として、同地域の経済発展を図る事業が進められている。近年同地域に情報通信産業に関わる企業が集まってきているところから、オーレスン地域をスカンジナビアの先端ITセンターとして、IT産業の成長を通じた経済発展が見込まれている。同地域のIT企業が組織した「ITオーレスン（IT Öresund）」によれば、オーレスン地域にはIT関連企業1万3,870社があって、これら企業では4,000名の研究者が技術開発に取り組んでいるという。そして、これらIT企業の総売上は年間約1,830億スウェーデンクローナ（以下クローナ、1クローナ＝約12.8円）に上っている。また現在、特にスコーネ地域におけるIT企業の設立が進んでいる。

スコーネ地域には建設業のSkanska（従業員数2,775人）、薬品のAstrazeneca（同1,725人）やPharmacia（同775人）、食品のSwedish Meats（同1,450人）やDanisco Sugar（同850人）、IT産業ではEricsson Mobile Communications（同1,625人）など、比較的大規模な外国および地元企業が既に進出してきていたが、オーレスン橋開通以降は、スコーネを北欧市場の拠点として位置付ける外国企業も多い。それらのうちには、ルンドに支社を設けた英国のNathern Marine Ltd.-Photon Internet Tech.Systems 社や台湾のVia Techolynes Inc. 社のほか、IT産業ではないがトヨタ自動車も2001年10月にマルメに北欧市場に対応する支社を設けており、今後、北欧地区の物流

機能を当地に統合する予定である。

2. リサーチパークの概要

スコーネ地方には、1983年にイデオン・サイエンス・パーク（IDEON）がスカンジナビアで初めてのリサーチパークとしてルンドに開かれて以来、大学など高等教育機関と産学共同事業を行うことのできる環境が続々と設けられてきた。

マルメにあるメデオン（MEDEON）はバイオテクノロジーと医療技術のリサーチパークであり、敷地はスカンジナビアの医療産業の60%が集積しているメディコン・バレー（Medicon Valley）の一部に位置している。メデオン内の各企業はオーレスン地域の大学や高等教育機関、大学付属病院と共同で、同分野において最先端の技術を開発している。

スコーネ地方の北東部にあるクリスチャンスタッドにも、クリスチャンスタッド大学との産学共同研究・開発を提供するクリノヴァ・サイエンス・パーク（Krinova Science Park）がある。ここでは主に、高分子化学や環境関連技術の研究および開発が行われている。

オーレスン海峡北部のヘルシンボリにあるヘルシンボリ・トレード・センターでは、1万9,500m²の敷地に企業のオフィスなど産業活動のための施設が用意されている。2005年に建設工事完了予定のルンド大学ヘルシンボリキャンパスには、技術開発、海洋生物学、通信科学、サービスマネジメントなどの学科が2001年から次々に移転しており、将来的にはヘルシンボリ・トレード・センターに所在する企業との間における、産学共同研究が見込まれている。

イデオン・サイエンス・パークは大学の街として歴史の長いルンドにある。ルンドはマルメから約15km程北東に位置し、ここには1666年にスカンジナビア初の大学として設立されたルンド大学がある。3万4,000人とい

ルンド大学の学生数は北欧では最多で、ここで生まれた新鮮なアイデアや知識を活かすために、イデオン・サイエンス・パークがスカンジナビアで最初のリサーチ・パークとして83年に設立された。

イデオン設立以来、ルンド大学とイデオンに所在する企業との共同開発やイノベーションによって、IT、バイオテクノロジー、環境関連技術、機能食品の分野における数々の新技術が、世界中の市場に紹介されてきた。こうしたイデオンにおける産学共同開発によって成功を収めた企業には、エリクソン・モバイル・コミュニケーションズ（移動体通信機器開発）、アクシス・コミュニケーションズ（ITシステム開発）、AU-システム（移動体通信/ITソフト・システム開発）、Cテクノロジー（イメージ・プロセッシング）、アノト（イメージ・プロセッシング）、プロビ（バイオ・テクノロジー）、バイオ・イベント（医療技術開発）などがある。

3. 移動体通信関連産業・研究開発施設の概要

エリクソン・モバイル・プラットフォーム
/ Ericsson Mobile Platforms AB
(www.ericsson.com)

電話機メーカーのL.M.エリクソン社は移動体通信部門であるエリクソン・モバイル・コミュニケーションズ社を、ルンドのイデオン・サイエンスパークの開設当初に設立した。

L.M.エリクソン社の移動体通信部門における事業改革に伴い、エリクソン・モバイル・コミュニケーションズ社は閉鎖され、代わってエリクソン・モバイル・プラットフォーム社が2001年9月に設立され、L.M.エリクソン社の移動体通信技術の研究・開発を受け継いでいる。同社で開発された第2.5世代、第3世代移動体通信のプラットフォームは、ソニー・エリクソン・モバイル・コミュニケーションズ社ほかヨーロッパやアメリカ、アジ

ア諸国の5企業へ供給される契約が結ばれている。

エリクソン・モバイル・プラットフォーム社はルンドのイデオン・サイエンスパークの本社に約600名のエンジニアが就労しているほか、イギリス、アメリカと東京に支社を設けており、総従業員数は約850人に達している。同社の総売上高はL.M.エリクソン社の方針で公開されていないが、エリクソン・グループの総売上は約2,110億クローナである。

ソニー・エリクソン・モバイル・コミュニケーションズ / Sony Ericsson Mobile Communications (www.sonyericsson.com)

ソニー・エリクソン・モバイル・コミュニケーションズ社はソニーとエリクソンが50%ずつ出資して、2001年10月に設立した移動体通信機器の開発企業である。2社のジョイント・ベンチャーの目的は、画像処理技術の共同開発で、本社をイギリスに置いており、エリクソン・グループに属していない独立した企業である。

同社は機器製造はアメリカ企業のフレクストロニクス社に委託しており、独自の製造部門は設けていない。従って、ソニー・エリクソン・モバイル・コミュニケーションズ社の総就労者数約1,000人のうち多くの者は、営業を含むマーケティング部門に従事している。

ルンドのイデオン・サイエンスパークには同社の携帯電話など移動体通信機器の研究・開発部門がある。

AU-システム / AU-system AB
(www.ausys.se)

AU-システムは携帯電話やコンピュータ通信の分野におけるソフトウェアおよびシステム開発関連企業である。ソフトウェア開発企業として1974年に設立し、スウェーデン郵便や電信電話会社のテリア、国家管理局、エリクソンなどの通信や管理システムを手がけて

きた。2001年のソニーとエリクソンの携帯電話共同開発にともなうソフトウェアの同調などにも携わっている。

91年にルンドのイデオン・サイエンスパークに移転し、現在の同社は雇用者数約130人、総売上高は約1億3,200万クローナに達している。2002年2月には北欧にシェアを広げている無線・移動体通信や医療電子技術などのソフトウェア・技術研究開発会社のテレカ (Teleca) が同社株の99.1%を買収し、テレカの傘下企業となった。

ブルーセル / Bluecell AB

(www.bluecell.se)

ブルーセル社は無線通信におけるソフトウェア開発の企業である。Jaytalkやブルートゥース、WLAN-IEEE802.11向けのソフトウェアを手がけてきた。

2000年からイデオン・サイエンスパークに同社は所在している。エンジニア3人だけの企業ながら、年間総売上高は約15万ユーロに達している。

ワイド・サイエンス / Wide Science AB

(www.widescience.com)

ワイド・サイエンス社はルンドのイデオン・サイエンスパークに2001年5月11日に設立された技術開発企業である。同社はデスクトップ・アプリケーションを移動体通信網上で利用する技術の研究開発を行っている。そのうちには第2・2.5・3世代技術およびブルートゥース、LAN、W-LAN技術を利用した携帯電話において、電子メールやニュース、経済情報などを呼び出す技術がある。

現在、従業員数は13人、うちエンジニアは8人である。

モテコ / Moteco AB (www.moteco.com)

モテコ社は携帯電話通信用のアンテナ開発・製造企業である。同社の研究・開発部門

はイデオン・サイエンスパークにある。ここで、遠隔あるいは近接受送信用のアンテナのための新しい技術が開発されている。同社は中国とマレーシアにある工場で製品を製造しており、子会社のギガアント社を含めた総就労者数は約300人、売上高は約1億4,000万クローナである。

ギガアント / gigaAnt AB

(www.gigaant.com)

ギガアント社は携帯電話用の端末アンテナ研究・開発および製造を行っている。2.4Ghzの短波用の無線通信アンテナなどを手がけている。本社はルンドのイデオン・サイエンスパークにあり、約50人が就労しているほか、シンガポールの支社には製造や販売を管理する25人の従業員がいる。同社はフィンランドのペルロス (Perlos : 合成樹脂開発) 社の傘下であり、モテコ社が同社の株主である。

Cテクノロジーズ / C Technologies AB

(www.ctechnologies.se)

Cテクノロジーズ社は96年にイデオン・サイエンスパークに設立された先端技術開発企業である。創立以来、主にデジタルカメラやイメージ・プロセッシングの分野における技術を、スウェーデンをはじめ世界市場に供給している。

そして最近では特に、活字および手書き文字を認知する電子ペンであるC-penを利用して、認知された文書をコンピュータのファイル上で再生する技術 (C-テクノロジー) を開発した企業として知られている。このC-テクノロジーを開発したクリステル・フォーラエウス氏は、続いて現在Anoto-penの開発を進めている。

同社および傘下のアノト社はルンドやストックホルムをはじめアトランタ、ボストン、東京、香港に支社を設けており、グループの総売上高は1億5,600万スウェーデンクロー

Report 5

ナで総従業員数は300人である。Cテクノロジーズ社のみでは売上高は1億3,000万クローナで、98人を雇用している。

アノト / Anoto AB (www.anoto.co.jp)

アノト社は99年にルンドのイデオン・サイエンスパークにC-テクノロジーズ社の子会社として設立された。アノト社は文書や図案、背景などの情報をコンピュータやセルラー電話、PDAなどへ転送する技術である、電子ペン・ペーパーのプラットフォーム技術を提供している。

2002年3月にアノト社はマイクロソフト社の.NETプラットフォームで利用する電子ペン・ペーパー技術の、マイクロソフト社との共同開発計画をスタートした。

同社はルンドの本社のほかにストックホルムをはじめボストン、東京、香港に支社を開設しており、総就労者は約200人、売上高は2,600万クローナにのぼっている。

デクマ / Decuma (www.decuma.se)

デクマ社は99年に3人のルンド大学の数学者が設立した情報処理技術研究開発企業で、ルンドのイデオン・サイエンスパークに所在している。同社はあらゆる言語（日本語や中国語などを含む）の手書き文書を解読、認知できるソフトウェア開発を可能にする、アルゴリズムに則った方法を研究開発した。

尚、同社は2002年4月にはHP・ジャパンから日本語手書き文書解読ソフトウェアの開発を依頼されている。

Tシステムズ / T-Systems

(www.t-systems.se)

2002年3月、ドイツ・テレコム・グループはスコーネ地域のマルメに所在するIT企業のプリミックス社 (Primix) を買収、同社はグループ傘下のTシステムズに統合されることになった。Tシステムズはヨーロッパ各地の

24カ国に4万人を雇用し、年間総売上は約1兆クローナにもものぼる欧州最大のIT企業である。

同社のプリミックス社買収の狙いはスウェーデン市場参入の拠点づくりである。マルメ支社における業務は、ITや通信分野における技術や製品、サービスやネットワークを通じたe-ビジネス開拓である。同社は今後5年間に年間売り上げを3,500~4,000億スウェーデンクローナにまで伸ばし、マルメ支社の就労者数を2~300人にまで増やすことを目標にしている。

アクシス・コミュニケーションズ / Axis Communications (www.axis.com)

アクシス・コミュニケーションズは84年にルンドに設立されたソフトウェア開発企業である。同社は2002年にソルトレークシティで開かれた冬季オリンピックのメイン・メディア・センターに、デジタルネットワークによる監視システムを提供している。デジタル方式のアクシス・ビデオ・サーバーはアナログ方式のカメラから送られる情報を記録すると同時にコピーを作成する。万が一、監視カメラから監視室へ中継された記録が破損された場合には、複製記録を検索することができる。また、このシステムには赤外線撮影用のソフトウェアも組み込まれているため、夜間の駐車場などでもはっきりとした映像によって監視できるようになった。

2人のエンジニアから始まった同社であるが、現在では約300人を雇用し、総売上高は6,890万クローナに上っている。OEM供給先は70カ国に達し、日本向けにはネットワーク周辺機器サーバの日本語環境製品の開発を行っている。(www.axiscom.co.jp)

プレシス・バイオメトリックス / Precise Biometrics (www.precisebiometrics.com)

プレシス・バイオメトリックスは1997年に

ルンドに設立されたソフトウェア開発企業である。同社はルンド大学技術研究所のエンジニアとイデオン・サイエンスパークと共同で、ピン・コードに代わる指紋とITによる警備システムの開発を進め、指紋認知をカード認知に統合した新しいIDシステムを99年に発表した。これはアメリカのペンタゴンに供給され、軍関係者の移動コンピュータからペンタゴンのサーバーへアクセスするセキュリティ網を保証している。

現在、ルンドの本社には60人が就労しているほか、アメリカに支社を置いている。

クオリティラボラトリーズ・スウェーデン / Quality Laboratories Sweden AB
(www.q-labs.com)

クオリティラボラトリーズ・スウェーデンは1989年にイデオン・サイエンスパークに設立されたソフトウェア研究所である。地元スウェーデンをはじめ、ドイツ、フランス、イギリス、デンマーク、アメリカの企業のための電話、移動体通信網や自動車産業などにおけるソフトウェア開発のコンサルティングおよび検査を行ってきた。

2002年5月まで、エリクソン・グループの傘下にあるスウェーデンの企業であり、ノルウェーのRatos社とDNV (Det Norske Veritas) 社が同社株をLMエリクソン社と分け合っていたが、エリクソン社が持ち株を売却し、現在は、Ratos社とDNV社がクオリティラボラトリーズ・スウェーデンを所有している。

ドイツ、フランス、イギリス、アメリカには支社があり、総就労者は約160人、ルンドには約20人のエンジニアがいる。

Pronano AB / プロナノ社
(www.pronano.se)

プロナノ社はスコネ地域におけるナノテクノロジー産業の育成を計るため、マルメ市

がルンド大学と共同で設けた研究所で、非営利団体である。既に、数社がルンド大学のナノ・コンソルチウムの研究および開発した技術や知識を利用している。プロナノ社はまた、研究者が自らの研究を生かす事業を創設したり、顧客となる企業や他の研究者を斡旋するなどのサービスも行っている。同社は設立したばかりで現在、就労者は2人であるが、今後は雇用を増やしていくことにしている。

IDEON Science Park

ルンド大学で生まれたアイデアや知識を活かすために、83年に設立されたイデオンはスカンジナビアで最初のリサーチ・パークである(当時は7社が入居)。設立以来、大学と企業の共同開発やイノベーションによって、数々の新技術が世界中の市場に紹介されてきた。イデオンにおける産学共同開発によって、エリクソン・モバイル・コミュニケーション、アクシス・コミュニケーションズ、オプシス、AU-システム、Cテクノロジー、アノト、プロビ、バイオ・イベントなど、情報通信産業あるいは医療産業などの分野において世界的な成功企業が出ている。

イデオン・サイエンス・パークはフォースタ・ファスティヘツ・株式会社イデオン社とイデオン社(両者とも不動産会社)の所有するイデオン・センター株式会社によって運営されている(資本金3,834万クローナ)。イデオン・センターの業務は成長が期待される様々な開発段階の企業を誘致するために、ユニークな環境、ネットワーク構築、機能的なインフラストラクチャーと質の高いサービスを提供することである。具体的には2つのレストラン、保育所、財務・コンサルタントセンター、電話・コンピューター通信施設、会議場・会議室施設、不動産サービスの提供およびマーケティング、入居アプリケーションの受付などである。

北欧初のサイエンスパークとしてのブラン

ドと北欧最大のルンド大学との共同研究により、イデオン・サイエンスパークは多くの企業に注目され、発展した。LM エリクソン社の移動体通信事業部門であるエリクソン・モバイル・コミュニケーションズ社もここで起業している。92年にスウェーデン経済が深刻な不景気に陥ると、イデオンに入居していた企業のうち14社が倒産し、さらに96年にエリクソン・モバイル・コミュニケーションズ社が本社をストックホルム近郊に移転すると（ただし、同社のR&D施設は同サイエンスパークの隣接地に残った）、その後は小企業も受け入れるように方針転換を行った。

「イデオンに企業を設立したことで、さまざまな貴重なコンタクトを築くことが容易となった。さらに、大学に近接していることで、コンピュータや電子工学の分野における有能な技術者を雇用することも容易になった。」と、ソフトウェア開発を行うアクシス・コミュニケーションズ社の代表取締役ミカエル・カールソン氏が述べるとおり、イデオン・サイエンスパークに所在することで、企業の研究開発におけるさまざまな利点がある。現在、ルンド大学の学生・研究者約400人が、同サイエンスパークのプロジェクトに関係している。

アノト社のクリステル・フォーラエウス取締役は「イデオンという名前が既に成功の代名詞のようになっており、そこに企業を置いていることで、市場において信頼を得ることができる。また、ハイテク企業が集約していることは、幅広いネットワークを提供している。」と、技術やサービスを市場に導入することにおいても、イデオンに所在している利点があるという。

2000年3月にはインキュベータ施設としてグリーンハウス（Växthuset）が設立され、現在、Decuma社（ソフトウェア開発）、Erysave（血液洗浄）など10社が入居している。グリーンハウスへ入居した場合、最初の

半年間は家賃・サービス料が無料である。また、その後も無料でネットワークの利用、訓練コースの受講、コンサルティングの利用ができる。同施設への入居審査は運営委員会が行っているが、実際にはテクノポール株式会社（Teknopol AB）がスクリーニングを行っている。

イデオン・サイエンスパークの8.5万m²あるオフィス・研究室のスペースに、現在約183社が入居しており、そのうち38%がIT産業の企業である（約40%はバイオテクノロジー関連企業、その他はコンサルティング・サービス関連企業等）。イデオンに所在する企業の総就労者約2,000人のうち、IT産業就労者数は50%を越えている。

イデオンはスウェドパーク（Swedepark）と国際サイエンス・パーク協会（The International Association of Science Parks）の会員である。

ルンド大学

伝統のあるルンド大学では大学院・博士過程における研究活動が盛んに進められており、各分野の研究に取り組んでいる大学院学生数は全学部で3,300名が数えられている。医療や海洋学などの研究室は近年関係企業の移転が進んでいるマルメ（医療）やヘルシンボリ（海洋学など）に、本校の位置するルンドから移転しつつある。工学部はInstitute of technologyとして既にルンドのイデオン・サイエンスパークに隣接する敷地にキャンパスを設けている。ここでは様々な技術研究が行われており、これらのうちにはイデオン・サイエンスパークに所在する企業をはじめスコネ地域の企業と共同で行われる研究もある。こうした新技術はさらに製品やサービスとして開発され、やがて市場に紹介されることになる。また、こうした高度な研究に携わった学生は卒業後、優秀な研究者として企業に迎え入れられている。

ITおよび移動体通信関連技術の研究はインフォメーション・テクノロジー科およびコミュニケーション・システムズ科で行われている。

インフォメーション・テクノロジー科の大学院研究室では人工知能、コンピュータ・システムとインフォメーション・セオリーおよびテレコミュニケーションなどの研究が行われている。

コミュニケーション・システムズ科ではソフトウェア開発やコンピュータ・システム、テレコミュニケーションの研究などがおこなわれている。

そして、これらの研究のうちのいくつかは、スウェーデンの電信電話会社であるテリアやエリクソン、あるいは、イデオン・サイエンスパークに所在する研究所であるクオリティ・ラボラトリーズ・スウェーデンと共同で進められている。

また、ルンド大学ではナノ・コンソルチウム (Nano Consortium) という組織を設け、ここで既に10年間、約75人の研究者や専門家がナノテクノロジーの研究を進めてきたが、2003年にはルンド大学はナノ科学とナノテクノロジーを学ぶ学科を設けることにしている。このナノテクノロジー専門家育成の新しい学科開設は、スウェーデン政府の進めてきた長期研究のための投資の一部であり、これによって異業種分野共同研究計画であるBioNanoITを促進しようという目的がある。さらに将来的には研究者と経営と産業の共同事業が増進することを政府は期待している。

4 . 支援体制

2000年7月にデンマークとスウェーデンを結ぶオーレスン橋が開通して以来、スコーネ地域ではコペンハーゲンとともにオーレスン地域におけるさらなる経済発展を目指すため、オーレスン地域に既に集積しつつあった医薬品やIT、食品産業の成長の促進が、政府

をはじめ地方自治体や商工会議所などの共同で図られている。

リージョン・スコーネ・インワード・インベストメント / Region Skåne Inward Investment (www.skane.se)

リージョン・スコーネ・インワード・インベストメントはスコーネ地域の貿易および外資誘致を振興するために設けられた、地方自治体の一部門である。国内および外資系企業に対して、スウェーデンおよびスコーネにおける事業所設立から事業育成コンサルタントまで、経済活動に関わる幅広い分野でのサポートを用意している。

現在7人のスタッフがこれら様々な業務に携わっている。

IT・オーレスン / IT Oresund

IT・オーレスンはスコーネ地域を含むオーレスン地域のIT産業に関わって、イノベーションの推進と市場調査を行い、IT産業による地域の経済発展を振興する組織である。IT・オーレスンには地域内の12大学 (ルンド大学、マルメ大学、クリスチャンスタッド大学、コペンハーゲン大学、ロスキレ大学、コペンハーゲン商科大学、デンマーク工科大学など) とIT企業および関連団体が参加し、IT産業発展に好ましい環境作りを進めている。そして、オーレスン海峡のスウェーデンとデンマーク両岸に広がる地域における、IT産業に関わる学生や研究者、企業および投資家のネットワークを設けている。スコーネ側にはルンドのイデオン・サイエンスパーク内に、IT・オーレスンの事務所がある。

IT・オーレスンでは地域内のIT企業リストをホームページ上で作成している。現在、スウェーデン企業158社、デンマーク企業246社が登録されている。このリストはwww.it-match.comで見ることができる。

Report 5

テクノロジー・トランスファー財団 / The Foundation for Technology Transfer

同財団はスウェーデン南部とオーレスン地域の産業発展のために、スウェーデンとデンマークの大学の研究成果の利用を推進する目的で95年に設立された。それ以降、Kunskapsbronというプロジェクトを通じて、大学で研究された3,000以上の研究成果を、企業の研究開発に結び付けてきた。

大学と企業の橋渡しのために、テクノロジー・トランスファー財団はテクノポール株式会社（ビジネス開始におけるコンサルタント）、テクノシード株式会社（事業開始資金準備）、ルンド大学テクノロジーグループ（特許申請援助）という3つの企業を設けており、これらの企業が研究開発事業に必要なサービスを提供している。

スウェーデン商業評議会南スウェーデン / Swedish Chamber of Commerce of Southern Sweden

スウェーデン商業評議会南スウェーデンは会員3,000事業所にもおよぶ大きな団体である。スコーネ地域にはエリクソンやアクシス・コミュニケーションズをはじめ、多くの情報通信や移動体通信産業関連企業が集中しているところから、今後の同産業によるスコーネおよび南スウェーデンのさらなる経済発

展を期待し、支援している。また、ルンド大学などと企業の産学共同開発による新技術開発の可能性にも注目し、支援をしている。

インベスト・イン・スウェーデン / Invest in Sweden Agency

インベスト・イン・スウェーデンは外国企業のスウェーデン国内における会社設立を促進する政府機関である。ここでは外国企業のスウェーデン国内における会社設立のための情報提供を行っている。情報の内容は顧客となるスウェーデン企業の調査から税制をはじめとするスウェーデン国内の事業所設立および運営条件、事務所の設立場所や雇用者の紹介、必要となる会計士や弁護士の紹介、ジョイントベンチャーなどの相手企業調査まで、多岐にわたっている。

IT・スウェーデン / IT Sweden

IT・スウェーデンはスウェーデン外務省、スウェーデン輸出理事会、インベスト・イン・スウェーデン、スウェーデン情報技術・電話通信産業協会とスウェーデン科学・技術連絡会が集まって、スウェーデン国内におけるIT産業発展のためのネットワークづくりを目的に設立された。IT産業に関わる企業や研究所などの情報を提供している。